

学びの庭



第2号

知・徳・体の調和のとれた児童の育成を図り、児童一人一人のよさや可能性を伸ばす。

文責 校長 岩下清彦

新緑の若葉のように



山々の木々に新緑の若葉が芽吹いています。若々しい葉は、これからぐんぐん成長していく玉諸小の子どもたちに重なって見えます。

さて、始業式・入学式から1か月近くが過ぎ、新年度の学校生活も軌道に乗ってきました。最初はずいぶん緊張していた1年生もすっかり学校生活に慣れてきたようです。教室からは元気に発言する声や明るい歌声が聞こえてきます。集団登校では、班長さんをはじめ上級生が1年生を気遣いながら歩いてくるのを見て感心します。下級生の子どもたちにとって、こうした優しいお兄さんやお姉さんに出会えたことはとても幸せなことです。今の下級生の子どもたちも大きくなったら頼りになる上級生になってほしいと思います。



健康管理をお願いします



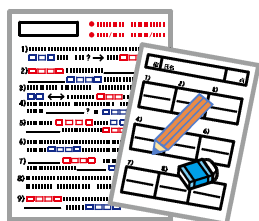
さわやかな5月を迎えましたが、大型連休があったり、年度はじめの緊張感が薄れたりすることで、生活習慣がくずれがちな時期です。「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣をしっかり身につけることが、学校や家庭でのがんばりにつながります。毎日の小さな積み重ねが大切であることを、ご家庭でもご指導ください。

また、心や体の疲れが出てくる時期でもあります。入学や進級による環境の変化や、周囲の期待や「がんばらなくては」という意気込み等から出る疲れです。疲れを取るためにも、休日の過ごし方に配慮が必要です。特に、遠出や人混みに出ることもあるかもしれませんが、ぜひ、子どもたちの体力に合わせて、計画を立ててくださるようお願いいたします。ご家族の楽しい思い出づくりとともに、心も体も休めてリフレッシュできますように願っています。



全国学力・学習状況調査、県学力把握調査を実施しました

4月17日に、6年生は全国学力・学習状況調査を、3・5年生は県学力把握調査を実施しました。6年生は国語A（知識に関する問題）、国語B（活用に関する問題）、算数A、算数Bと3年に一度実施する理科、さらに児童質問紙に取り組みました。3・5年生は国語と算数の2教科でした。問題冊子は数ページのものから30ページ近くになるものまでありました。これだけのまとまったテストを一日で行うのは、子どもたちにとってなかなか大変なことです。みんな真剣に問題に向き合っていました。



これらの調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や児童生徒の生活状況の実態等を明らかにすることにより、各学校における児童生徒への指導内容の充実や指導方法の改善、日々の生徒指導等に役立てることなどを目的としています。今後、調査結果を分析し、課題等を明らかにした上で、指導方法の改善等に役立てながら授業を行っていきます。（裏面もあります）

学校と家庭との連携を密に

授業参観ありがとうございました

4月21日の土曜参観には、多くの保護者の皆様にご参加いただきありがとうございました。この日は汗ばむような暑さでしたが、今年度初めての授業参観では、進級した学年で一回り成長した子どもたちが、真剣に学習に取り組む様子をご覧いただけたことと思います。



有意義な家庭訪問になりました

4月24日から本日まで、5日間にわたって実施しました家庭訪問には、お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。

家庭訪問を通じて、保護者の皆様と直接、子どもたちについて話したり、保護者の皆様の思いや考えを直にお聞きしたりすることができ、大変有意義でした。今後も、学校と家庭との連携を密にしながら指導にあたっていきたいと考えています。

また、学年PTA総会、専門部会では、今年度の活動の見通しを持つことができました。

PTA総会へのご参加を

5月14日（月）に開催予定のPTA総会では、昨年度の活動等の報告、今年度の新役員の承認、活動方針などについて話し合われる予定です。家庭と学校が、相互に理解と協力を図っていく契機にしていきたいと考えています。ぜひご参加ください。



玉諸小学校の校歌の由来

一 夢の国かたまごうほど
広いすがしい玉諸の
柳さくらとつどいたる
学びのにわのゆかしさよ

二 ながめ雪山遠けれど
朝は朝風 夕日かげ
まもる力もうるわしの
野にはれんげの花ざかり

三 春秋ここにいくめぐり
やしろのゆかりとおくとも
新産業にうち向う
六年をほまれのがが母校

玉諸小学校校歌

作詞 向井房恵
作曲 坂口五郎

校歌が制定されたのは、昭和39年（1964年）10月7日、今から54年前ことです。校歌には、この地域の自然や歴史を織り込み、子どもたちに明るく元気に育ってほしいという願いが込められています。

玉諸小学校百周年記念誌「玉諸小学白寿史」には、次のように書かれています。

「柳の新緑、開き始めた桜のつぼみ、校舎の周りは見渡す限り一面のレンゲ畑。昭和39年の春、新校舎の屋上へ上られた向井房恵先生はあまりの美しさに「夢の国ふさはるのようだ。」と感嘆されたという。それから、玉諸神社をはじめ土地の様子を

いろいろ調べられ、明るく力強い校歌を作詞してくださった。なお、それ以前には校歌はなかった。」

▶ 校歌作詞者の向井房恵ふさはるさん（1889-1975）は、北巨摩郡熱見村（現在の北杜市高根町）出身。谷村工商校長、甲府市助役、第1回公選山梨県教育委員長などを歴任、県教育功労者。玉諸小校歌のほか、里垣小、国母小、貢川小、東小、明見小、秋山中、ろう学校などの多くの校歌や山梨青年団歌などを作詞しました。

▶ 校歌作曲者の坂口五郎さん（1901-1975）は、長野県長野市出身。山梨大学教授、同大学名誉教授、帝京短期大学教授などを歴任、県政功績者。玉諸小校歌をはじめ、里垣小、国母小、明見小、谷村第二小、敷島中、双葉中、峡南高校、山梨学院大学などの多くの校歌のほか、山梨県の体育祭りの歌、山梨観光音頭、山梨遊覧小唄などを作曲しました。